

金剛山麓の樹林内を歩いていると...

「ツグミ」くらいの大きさ（体長 25 cmほど）の野鳥の「食痕」を見つけました！

むしり取られた羽毛が散乱する中、赤い「肉」も結構残っていましたが、恐らく獲物を捕らえて食べていた「猛禽類」が、我々人間の気配に気づいて、飛び立ってしまったのでしようね。（悪いことをしてしまいました...）

この辺りは 10 cm 程度の積雪がありましたが、スギやヒノキに覆われた林床部までは、雪も吹き込まなかったようです。

ただし、頭上の木の枝葉には相当量の雪が載っており、ときどき「ドサッ」という音とともに落ちてくるので、気をつけて歩かなければなりませんでした。

さて、いったい捕食されていたのは何という種類の野鳥なのでしょうか？

体長や足、嘴（くちばし）の色、羽毛の形や色などから判断すると、「シロハラ」ではないかと思えます。

冬鳥として大陸から渡ってきたところ、ここ越冬地の日本で残念ながら猛禽に捕食されてしまったのでしようね。

では、一方の猛禽の種類は何だったのでしょうか？

今回はまったく姿を見ることはありませんでしたが、「クマタカ」か「オオタカ」ではなかったのかと推測しています。

写真：散乱する羽毛（全景）

1m くらいの範囲に、むしり取られた羽毛が散乱していました。
左上と右上付近に写っている白いものは、「雪」です。



写真：散乱する羽毛

薄い茶褐色の羽毛が見えますが、「シロハラ」の羽色と同じですね。

写真：肉塊...

よく見ると、赤い肉塊の左上と右下には黄色っぽい「足」が見えています。
この写真の右端の中央には、黄色っぽい「嘴」（くちばし）も見えています...





